



## 子供たちの成長

1年担任 本多 由佳

初めて子供たちに会ったのが1月9日です。まだ、子供たちと顔を合わせる前の長休みに、職員室に私を見に来てくれた何人かの1年生がいました。教室に行くと、元気な声と笑顔いっぱいの嬉しそうな顔で質問してくれる姿がとても印象的で、嬉しかったです。

授業が始まると必ず手が挙がり、“自分の意見が伝えられる”“お互いに意見交換ができる” 恥ずかしがらず、失敗を恐れず、自己主張ができることに驚き、このクラスのよさだと思いました。

現在体育科の授業では、大縄跳びを練習しており、クラスの目標は1分間で23回跳ぶことと子供たちで決めました。最初はなかなか上手いかず、数回しか跳べませんでした。誰でも得意なものと苦手なことがあることを伝え、友達を助けカバーし合うこと、声のかけ方一つでチームが盛り上がり成功に繋がること、このようなやり方もあることを伝えました。すると、子供たちは失敗してもプラスの声かけをしたり、上手く跳べない友達にアドバイスをしたりと、雰囲気が一変し、目標の23回を大きく上回り、29回の最高記録を更新することができました。

1月下旬から始めた『ありがとう探し』では、日に日にありがとうの声が増え、感謝の気持ちを伝え合う様子が見られて大変嬉しいです。また、お家の方にもありがとうが言えたと報告してくれるようになりました。

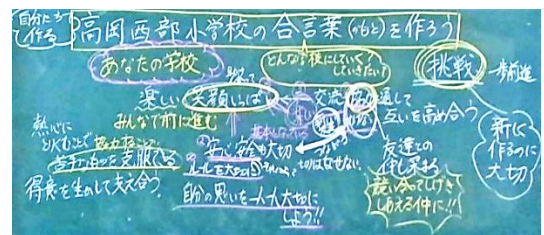
小さなことでも、“出来ないことが出来るようになった” 成功体験があるとより頑張ろうと思えたり、自分の中で特別なものになったりすると思います。子供たちの素直な心と活気溢れる意欲、向上心、特にこれらのよさが自ら成長スピードを上げていることを日々実感しています。子供たちとの貴重な日々を大切に、共に学び更に成長していきたいと思っています。



## 新しい学校のリーダーとして

5年担任 桑山 賢司

5年生は、次年度には高岡西部小学校の最高学年になることを意識して、4月からの時間を過ごしてきました。12月には西条小、横田小の5年生と集まって、新しい学校をどんな学校にしたいかについて、意見を出し合いました。「笑顔いっぱい」「協力・助け合い」「挑戦」「刺激し合える仲に」など、それぞれの考える理想の高岡西部小学校について思いを語り合いました。



つい先週は、もうすぐ小学校生活初のクラス替えを経験し、新たな世界に飛び出すにあたって、「どんな学校でも、大人になっても通用する『よい』こととは何か」について話し合いました。「相手の顔を見て、話を聞くこと」「集中して授業に取り組み、理解しようとする」「あいさつをすること」「学習に必要なものを持っていくこと」「椅子を入れること」など、出来ているようで出来ていないことがあることに気づきました。そこで、新しい学校の最高学年としてお手本になれるように「よい」を意識するチェックリストを作り、毎日振り返ることにしました。1週間の取り組みを経て「チェックすることで意識できた」「週の始めより、後半の方がよくできていた」などの前向きな振り返りが多くみられました。

私が担任になってもうすぐ2年となる5年生の子供達。先日はクラス全員で8の字跳び103回の大記録を出したり、ハッピーフェスティバルでアイデアに溢れたお店を提案したりと、素晴らしい力をもっています。新しい学校のリーダーとしてのスタートまで、あと1か月ちょっと。それぞれが自信をもってこれまで頑張ったこと、乗り越えてきたことを大事に進級してほしいと願っています。

